

職員による自己評価

- A「業務改善」について
- ・満足度アンケート等で出た意見を取り入れている。
 - ・研修等には積極的に参加するようにしている。
- B「適切な支援の提供」について
- ・計画書に沿った支援を行えるように、日々様子を保護者と共するようにしている。
 - ・職員間で良かった点と改善すべき点を共有し記録を残すようにしている。
- C「関係機関との連携」について
- ・児に行っている支援が、違った環境の移行先にどう汎化できるかに焦点を絞り以降支援をしている。
- D「保護者への説明責任等」について
- ・説明をする際は、日々のエピソード等を交えながら伝えることで、保護者の同意を得られやすいよう工夫をしている。
 - ・コロナ禍により親子日が減ったことで、児の様子等を書面で報告している。
- E「非常時等の対応」について
- ・センターで起きたインシデントは、朝のミーティング等で周知、共有をしている。

保護者による評価

- A「適切な支援の提供」について
- ・できているとの評価は97.7%。
 - ・普段から視点やポイントを明確にくださり、懇談の際も支援計画につなげて振り返ったり、考えられるよう、分かりやすく説明していただけている。
 - ・担任によって差があるかもしれない。
- B「保護者への説明等」について
- ・できているとの評価は90.4%。
 - ・必ず話ができる場があり、少しの変化でも連絡ノートや電話でやり取りをさせていただいて、とてもありがたいです。
 - ・コロナ禍で仕方がないが、保護者同士の交流の場がもう少しあったら良いと思う。
- C「非常時の対応」について
- ・できているとの評価は91.4%。
 - ・感染症の説明について満足しています。
- D「満足度」について
- ・満足との評価は93.8%。
 - ・大満足です。
 - ・個別訓練がもっと受けられると良かったと思う。

事業所内での分析

- お子さんへの適切な支援の提供と保護者への丁寧な説明により、高評価が得られていると感じる。
- 新型コロナウイルス対策の影響だと思うが、親同士の交流が少なかったという意見があった。
- 「非常時の対応」への評価について、今年度は高評価だったが、例年は低い傾向にある。緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアル等について、引き続き、保護者への周知・説明の徹底と、定期的な訓練の実施を継続したい。
- 昨年度から取り組んだ、コロナ禍という非常時での新しいスタイルのサービス提供は、新しい時代におけるサービス提供のあり方として、もっと積極的に展開していきたい。

分析・検討してみた…

事業所の強み

- 一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している
診察・各種評価の結果を基に療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援をセンター全体として実施している。
- 保護者支援の充実に努めている
保護者向けの各種勉強会の実施、定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- 他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。
- 上記3点については、かながわ福祉サービス第三者評価でも評価された。

事業所の改善点

- 新型コロナウイルスの影響がまだまだ続く中、新しい時代におけるサービス提供のあり方を、積極的に展開したい。
- 保護者同士の交流については、次年度の課題として取り組みたい。
- 福祉サービス第三者評価でも課題とされた、身近な地域（地元自治会等）との連携について検討していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

本年度も新型コロナウイルスの影響があり、それを見越したサービスの展開は、ある程度はできたと思っておりますが、センターとしてもっと工夫を凝らしていきたいと考えています。今後も、新しいスタイルでのサービス展開について、全職員で検討し、実践していきます。また、身近な地域との連携も取り入れた施設運営ができるよう検討していきます。

保護者の皆様、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

事業所名 よこはま港南地域療育センター

担当者 管理課長 早川 仁

職員による自己評価

- A「業務改善」について
- ・保護者からの意見を取りまとめ、業務改善につなげていると感じる。
 - ・研修等を通じてPDCAサイクルの考え方を職員が意識できていると感じる。
- B「適切な支援の提供」について
- ・児童発達支援計画書は、一人ひとりの課題や目的を設定し療育を行うよう工夫している。
 - ・定期的にモニタリングを実施し、必要に応じて児童発達支援計画書の見直しを行っている。
- C「関係機関との連携」について
- ・児の主治医や協力医療機関について保護者と情報共有をし、連絡体制を整えている。
- D「保護者への説明責任等」について
- ・保護者会等を開催することにより、保護者間での必要な情報交換や連携が取れていると感じる。
 - ・一人ひとりの状況に合わせた伝え方を工夫している。
- E「非常時等の対応」について
- ・月1回以上避難・消防訓練を行い、緊急時の児と職員の動きを確認している。

保護者による評価

- A「適切な支援の提供」について
- ・できているとの評価は94.1%。
 - ・細かい支援計画を立ててくださり助かっています。家でのサポートの参考になります。
 - ・様々なプログラムを用意していただき、とても楽しそうに参加しています。
- B「保護者への説明等」について
- ・できているとの評価は94.1%。
 - ・保護者にも積極的にコミュニケーションをとっていただいていると思います。
 - ・マチコミ等で連絡をいただけるので、分かりやすく、見落としも少ないので助かります。
- C「非常時の対応」について
- ・できているとの評価は94.1%。
 - ・コロナ禍で周知徹底された連絡や対応をしていただいていると思います。
- D「満足度」について
- ・満足との評価は88.2%。
 - ・とても楽しみにしています。

事業所内での分析

- お子さんへの適切な支援の提供と保護者への丁寧な説明により、高評価が得られていると感じる。
- 「非常時の対応」への評価について、今年度は高評価だったが、例年は低い傾向にある。緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアル等について、引き続き、保護者への周知・説明の徹底と、定期的な訓練の実施を継続したい。
- 昨年度から取り組んだ、コロナ禍という非常時での新しいスタイルのサービス提供は、新しい時代におけるサービス提供のあり方として、もっと積極的に展開していきたい。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- 一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している
診察・各種評価の結果を基に療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援をセンター全体として実施している。
- 保護者支援の充実に努めている
保護者向けの各種勉強会の実施、定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- 他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。
- 上記3点については、かながわ福祉サービス第三者評価でも評価された。

事業所の改善点

- コロナ禍における、肢体不自由児への対応は多くの困難を伴う。このような中でも、保護者に寄り添い、子どもたちへの対応について、センターとしての取り組み方法を検討し、できることから実践していくことが必要。
- 新型コロナウイルスの影響がまだまだ続く中、新しい時代におけるサービス提供のあり方を、積極的に展開したい。
- 福祉サービス第三者評価でも課題とされた、身近な地域（地元自治会等）との連携について検討していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

本年度も新型コロナウイルスの影響があり、それを見越したサービスの展開は、ある程度はできたと思っておりますが、センターとしてもっと工夫を凝らしていきたいと考えています。今後も、新しいスタイルでのサービス展開について、全職員で検討し、実践していきます。また、身近な地域との連携も取り入れた施設運営ができるよう検討していきます。

保護者の皆様、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

事業所名 よこはま港南地域療育センター

担当者 管理課長 早川 仁

職員による自己評価

- A「業務改善」について
- ワークライフバランスを考えて、業務見直しに日々取り組み、効果的、効率的に働くことを心掛けている。
- B「適切な支援の提供」について
- クラスの状況に合わせたプログラムと活動内容を工夫している。
- C「関係機関との連携」について
- 就学先の学校との引継ぎを、保護者、学校の希望に応じて実施している。これまでの経過や状態等について情報共有を行い、連携を図っている。
- D「保護者への説明責任等」について
- 定期的な面談の場や日々の療育前後の時間で状況や療育内容の説明を行うとともに、随時の相談にも応じている。
- E「非常時等の対応」について
- 非常時のマニュアルの確認は必要時行い、保護者にも伝えている。
 - コロナ禍で避難訓練が十分ではなかった。

保護者による評価

- A「適切な支援の提供」について
- できているとの評価は95.6%。
 - 毎回プログラム内容はクラスごと工夫されており、子どもも楽しみにしている。
- B「保護者への説明等」について
- できているとの評価は89.6%。
 - 日々とても丁寧に声掛けをしてくれている。
 - もう少し時間があると嬉しい。
- C「非常時の対応」について
- できているとの評価は71.7%。
 - 避難訓練が充分でなかった。
- D「満足度」について
- 満足との評価は94.6%。

事業所内での分析

- 「適切な支援の提供」「満足度」については、共に保護者から高評価をいただいている。現在の療育内容等が認められていると感じる。今後も慢心せず、質の高いプログラム等を提供していきたい。
- 非常時の対応については、昨年度ほど低くなかったが、大規模地震等の発生等を見越した定期的な訓練が必要だと考える。
- 子どもの様子で気づいた点、保護者からの聞き取りなど、担任間で情報を共有している。
- 昨年度から取り組んだ、コロナ禍という非常時での新しいスタイルのサービス提供は、新しい時代におけるサービス提供のあり方として、もっと積極的に展開していきたい。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している
診察・各種評価の結果を基に療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援をセンター全体として実施している。
- 保護者支援の充実に努めている
保護者向けの各種勉強会の実施、定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- 他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。
- 上記3点については、かながわ福祉サービス第三者評価でも評価された。

事業所の改善点

- 保護者の評価が低かった「非常時の対応」については、今後の、大規模地震等の非常災害を見越し、改訂したマニュアルを基に、避難訓練等を実施するとともに、災害時における連絡方法、プログラム中における緊急時の対応など、保護者に理解を深めていただくよう工夫する。
- 新型コロナウイルスの影響がまだまだ続く中、新しい時代におけるサービス提供のあり方を、積極的に展開したい。
- 福祉サービス第三者評価でも課題とされた、身近な地域（地元自治会等）との連携について検討していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

本年度も新型コロナウイルスの影響があり、それを見越したサービスの展開は、ある程度はできたと思っておりますが、センターとしてもっと工夫を凝らしていきたいと考えています。今後も、新しいスタイルでのサービス展開について、全職員で検討し、実践していきます。また、身近な地域との連携も取り入れた施設運営ができるよう検討していきます。

保護者の皆様、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

事業所名 よこはま港南地域療育センター

担当者 管理課長 早川 仁